



シラス活用で地球温暖化防止に貢献

アース化研株式会社
代表取締役 松若 譲二

アース化研株式会社は薩摩川内市でシラスバルーンペイントを製造しています。平成17年7月1日に前身の有限会社ライブより社名変更致しました。同時に、旭化成グループ旭化成ジオテック株式会社と業務提携（総販売元契約）致しました。

十数年前の夏にシラス山を裸足で歩いた時、海岸の砂浜は火傷する程熱いのと比べ、シラスはそれほど熱く感じないことに気がつきました。この事が、シラスに興味を持ち、今日のシラスバルーンペイントを活用したシラスバルーンペイント開発のきっかけとなりました。昔は毎年雪が降り積もっていましたが、現在では雪も珍しくなり、環境の変化、悪化が感じられました。そこで、環境に配慮したシラス活用塗料をシンナーを使用せず水系塗料を基本にして研究開発に取り組んできました。しかしながら開発当初、社会、人々の関心は薄く、シラスバルーンペイントの受注に苦労致しました。失敗、損害を重ね諦めかけた事もありました。スタッフや諸関係者の皆様の協力があり、再決心をし、シラスバルーンペイントの製造・販売にがんばってまいりました。少ない施工の中から塗料研究会において温度データの計測、シラスバルーンペイント施工前・施工後の比較により効果を実証することができました。

平成6年より県工業技術センター「鹿児島ハイテク研究会」に参加し、シラスバルーンを活用した塗料の性能、測定、評価試験など、現在に至るまで人、測定装置などのさまざまなご指導、助言を受けてシラスバルーンペイント断熱・遮熱、2

つの違いのある塗料が生まれました。断熱の層と遮熱の層により、他社にはない使い分けのできる幅広い用途があります。

おかげさまで開発したシラスバルーンペイントは、平成12年に公募800社以上から選出され、日本最大級の「ベンチャーフェアJAPAN2000」に参加（出展）し、全国的にアピールすることができました。入場者が多く、小社のブースにも絶え間なくお客様が来られ、行列ができるほどで、多くの方が省エネ対策に関心を示されておられる事がわかりました。平成13年には、環境省からヒートアイランド現象抑制策の一つとして人工排熱量の削減に有効な断熱塗料として認められました。関連して、土木学会誌「土木のベンチャービジネス」特集へも掲載されました。今年、京都議定書の発効、2007年には2000㎡以上の建物においては新築、改装時に省エネ対策を講じるべく法令化されます。CO₂削減がますます重要視されて、シラスバルーンペイント外断熱塗装による施工が増えると予測しております。

今現在、産業用途として工場ライン塗装と農業用途で低価格なシラスバルーンペイントが求められています。これも県工業技術センターのご協力を頂き、早い時期に商品化すべく計画を進めております。需要の増加により安定した生産体制を確立し、工業製品化した「シラスバルーンペイント」をブランド化し、鹿児島の地場産業として雇用を増やし、利益を上げる事で地域に貢献していきたいと思っております。



シラスバルーンペイント施工例



本社工屋